

の子守女の、かばかり 長き書面を 認めたるさへあるに 師を思ふ切情誦然として、紙上に溢れ、其速に歸り來りて 更に教を垂れんことを乞へる一節の如き 如何に 師が平生至心を傾けて愛育せるかを窺ふに足らん。
(牧羊生稿)

(侯爵山内家婚禮式之内)

御神床之次第

石井泰二郎

雄蝶花形 瓶子
木影彩色 下壘模檢野草
衝重(御紋附白繪 松竹鶴龜)

置鳥

奈良蓬萊

置鯉

雄蝶花形 瓶子
雌蝶花形 下壘模檢水草
衝重(右同)

右は禮節師範松岡止波子の調進されし御式中の一部なりしを上げざるまゝしるしつ



●女子高等師範學校生徒募集 同校にては今回私費國語漢文專修科生四十名を募集し、來九月十一日入學を許可せらるべしと云ふ。該科は修業年限一年七ヶ月にして、師範學校女子部高等女學校の國語漢文科の教員たるべきものを養成するものにて、既に本年三月三十日を以て第一回卒業生を出し、夫々地方に赴任して、中等教育に従事せしむと云ふ。入學志願者は品行方正身體健全にして、修業年限四箇年の官公立高等女學校卒業生若くは之と同等の學力を有し、年齢十七年以上三十年未満にして、夫を有せざる者の由にて、本年六月十

五日迄に願書を差出さば、試験の上入學を許可せらるべしと云ふ。

●女子大學校開校式 同校は愈去月二十日を以て左の順序によりて盛大なる開校式を舉行せり。

一 奏 樂

一 君が代 (一同起立)

一 敎語捧讀 (一同起立)

一 開校の辭 (校長成瀬仁藏)

一 祝 歌 (ドクトル、ケーベル)

一 演 説

創立委員會計監督 男爵 澁澤榮一

發 起 人 侯爵 西園寺公望

創立委員長 伯爵 大隈重信

一 祝 辭

文部大臣松田正久君

貴族院議長公爵近衛篤磨君

衆議院議長片岡健吉君

東京府知事男爵千家尊福君

一 奏 樂

一 祝 辭

大日本女子教育會長公爵母堂毛利安子君

東京帝國大學總長菊池大麓君

華族女學校長男爵細川潤次郎君

女子高等師範學校長高嶺秀夫君

女子教育獎勵會委員長伯爵土方久元君

帝國教育會長辻新次君

一 奏 樂

一 立 食

●東京官啞學校第十三回卒業式 同校にては去十六日午前九時右卒業式を兼ねて創業より廿五年と

訓育點子採用してより十年の紀念式を行ひしに大

雨にも拘らず文部省よりは松田文部大臣を始め

各等高等官濱尾前文部大臣子爵野村樞密顧問官衆

議院議員創業者舊樂善會員連合教育會委員生徒の

保證人等凡四百五十名來觀し中には式を終るまで

立ち通したる者數十名ありたり、來賓には創業よ

り今日までの沿革を詳記し創業者山尾庸三前島密

中村正直津田仙岸田吟香杉浦讓古川正雄小松彰の

八名及最初の訓育院長大内青巒と最初の校長故理

學博士矢田部良吉の二君肖像を挿入したる冊子と

種々の統計を印刷して配布し其式は(一)洋琴と琴の合奏にて始まり(二)證書授與の後校長の演述(三)文部大臣の演述(四)盲生卒業生總代の點字の謝辭を指に讀上げ啞生卒業生總代男子は大きく書きたる謝辭を張出し之を手真似にて文意を述べ女子は更に別の謝文を張出し口上にて述べた後に(五)新卒業生二名の彈琴(六)卒業生を送る唱歌あり(七)創業者の一人津田仙君の創業當初の演述と横濱訓育院長米人ドレーバル氏の興味ある日本語の祝詞あり(八)獨逸より買入れたる訓育本版木製造器械の使用を盲人が示し(九)創業廿五年の紀念唱歌と訓育點字採用十年の紀念唱歌とありて式を終り創業より沿革を知る様に陳列したる教授用具書籍の陳列室生徒成績品室啞生徒の催ふせる繪畫展覽室彫刻指物生徒の木象嵌展覽等を巡覽に供し午後二時よりは一般の人に之を縦覽せしめ音楽卒業生の催ふせる音樂會あり翌十七日より十九日まで毎日午前九時より

午後四時まで校内の縦覽を許せしに横濱より三日共に英米人來觀し詳細の説明を乞ふあり三日間凡そ一萬三千人其間各室教員分擔して説明の勞を執り來觀者に満足と與へたりといふ尙當日の紀念唱歌と生徒の祝詠謝辭を擧げて盲啞子弟の文志の大概を參考に供せんと欲すれども記事堆積の爲め遺憾ながら之を省略することとなりぬ。

●愛國婦人會 奥村五百子女史の首唱と、一條、岩倉、近衛、島津、等其他の各夫人の發起とに依りて成れる同會は、先月二日其發會式を九段階行社に開きたり。こゝに同會の趣意書と規則とを載せて、其如何を報せん。

愛國婦人會設立主意書

掛巻も畏き吾が皇國の御楯となれる軍人たち戰場に臨みて或ひは彈丸に碎かれ或ひは瘴氣に斃るゝに當り是の國民として其功に報ゆるは自づから種々の方法あるべしと雖生計困難なる遺族の救助こそ最も先にすべき者ならめ抑も我が帝國嚮に征清の役あり去夏復た兵を北滿に出だしに忠勇義烈の軍人は命を鴻毛の輕きに比して雨なす彈丸の下に身を抛ち臥す氷の床に夜を

守り名譽の戦死を遂げ不起の病に罹り異域の鬼となる者果してそれ幾ばくぞされば公けにも深く之を憫みをばしつぶさに救護の道を盡させ給へり然れども公の救ひの手には限り有て救はれ人は數限りも無しあはれ頭に霜を戴ける翁の子を先立てたる這ひぬざりだにあへぬ兒の親に後れたるあるは夫に別れ兄に離れて衛にさまよへるともがら擧げて數ふるに違あらざるべし之を救ふの方法將たいつにすべき博愛に富み慈善を體せる巾輻社會の力を協せて以て是等の遺族を賑恤するにしく者無からん爰に肥前唐津の人與村五百子齡耳順に達して憂國の銳氣然るが如く邊には朝鮮國の衰運を悲みて之を傍觀するに忍びず東奔西走してそが教育の道を開き今又奮然起ちて海を渡り血を踏み屍を踰え遠く北清に入りて親しく戦地の實況と軍隊の勞苦とを視察し歸るに及びて切に其遺族救護の良法を講じ軍人達に後顧の憂ひなからしめ愈々皇國の光輝を放たしめんとす女史曰く「願くは君邊が半襟一掛の用を節し資を積みて之れに充てよ」と真に適切の言と云ふべしわれら不敏なりと雖も均しくこれ女史が同胞姉妹たりいかでか同感同情の熱涙を凝きて以て女史が希望を助けざるべき依りて爰に愛國婦人會なるものを設立し普く有志の諸媛を糾合せんとするに當り長くも各妃殿下の聞し召す所となりて漸次御替同の光榮を給はんとす希くは世の閨秀たち吾等が微衷を賞察ありて賛成助力せられんことを切望して止まざる所になん

愛國婦人會規則

第一條 本會は戦死及准戦死者の遺族を救護するを以て目的とする

第二條 本會は愛國婦人會と稱し事務所を東京に置く

第三條 本會々員たる者左の如し

一 會費として金貳圓を納むるもの

一 一時金五拾圓以上を寄附するもの

第四條 本會は多少に係らず有志者の寄附金を希望す

第五條 本會の目的を賛成し寄附せられたる金圓は確實なる銀行に保管せしむるものとす

第六條 本會へ收入したる金圓は總裁の裁可を経て遺族へ贈るものとす

第七條 本會に左の職員を置く

總裁 一名

會長 一名

理事 若干名

幹事長 各府縣に一名

幹事 若干名

評議員 若干名

第八條 本會は右職員の外委員若干名を置き事務に従事せしむ

第九條 本會の事務並に會計報告は毎年一回新聞紙を以て報告すべし

●大谷派本願寺の育兒院及び幼稚園 大谷派にて

●は、派内の有志僧俗相謀り、今回の紀念法要を紀

念として、一の育兒院を創立し、無告の子女を救濟せんとすの計畫を進めつゝあり、又信徒中の有志者も同じく紀念法要を機とし、一大幼稚園を設立し京都淑女學校及び大日本婦人學會を聯絡して、家庭の改良を謀るべき計畫を立てつゝありといふ。

●大阪市東區愛珠幼稚園園歌
同幼稚園は、殆んど大阪市に於る幼稚園の鼻祖とも稱せらるべきものなるが、今回更に八萬餘圓の巨額を投じて新築せり。今其園歌を得れば、左に之を記さん

園歌 正三位勳二等子爵福羽美靜作歌

第一

ほまれも高き
東區今げし
それこの愛珠
ちきりめでたし
第二
なにほの浦の
すゑたのもしき

いまの花
三丁目
幼稚園
千代に八千代に
なによりも
幼稚園

ながきちぎりは 君が代に
すがたも高く のほすなりけり

●東京市女子實修學校設置方法
●今年市教育會に於て計畫せる女子實修學校設置方法左の如しと

一 本校は修身、國語、算術、裁縫、刺繍其他家事に關する事項を教授する事

一 本校には尋常小學校卒業以上の學力を有する年齢滿十二年以上の者を入學せしむる事

一 本校の修業年限は二ヶ年とする事

一 本校の授業は小學校授業時間後に於て三時間とする事

一 本校生徒の定員を一百名とし授業料は一人一ヶ月金七十錢とする事

一 本校の教場は當分麴町區飯田町四丁目私立稚松小學校の教室を借用する事

●婦女新聞 從來は重に一個人の手(?)によりて發刊せられ來りたる同新聞は、今回大日本婦人聯合會の機關となることとなりて、鳩山夫人、下田歌子女史等大に同新聞のために盡さるゝこと、なれりといふ。

●教育學術研究會 高等師範學校教授大瀨甚太郎氏、指導の下に新に表題の會は創立せられたるものにして、從來の雜誌教育學術界を以て之が機關とし大に斯道の爲に盡さるべしとのことなり、尙會則等は次號に紹介することあるべし。

新刊紹介

●泰西名婦傳 全一冊 永山盛良編

近世西洋女流の名家の或は畫家として教育家として慈善家として學者として記者として各方面に成效せる八人の小傳を編みて一小冊子となせるもの、吾人は今日の時勢に於て、かゝる必讀の良書の出でたるを喜ぶ。(定價三十錢、神田區表神保町、四 勢陽堂書房)

●姫百合 第三卷 第四

本號には栗島氏の享保文學と有徳公は未だ完結するに至らず學術には枕草紙保元物語等の評釋あり文苑詞藻等例によりて頗眼なり。(一冊十錢 同區北神保町三、姫百合社)

日本婦人 第三卷第三第四 姫百合合社
第十七號 帝國婦人協會

女學雜誌	第三號	大日本女學會
女子のとも	第五百十四號	女學雜誌社
家庭	第八十八號	東洋社
衛生談話	第四號	大日本佛敎婦人會
女鑑	第三號	通俗衛生茶話會
彰善會誌	第二廿七號	國光社
哲學雜誌	第三十七號	影善會
學生俱樂部	第十六卷第百十七號	哲學雜誌社
兒童研究	第一卷第一號	育成會
淨土教報	第三卷第九號	教育研究所
教育時論	第五百七十五六七號	淨土教報社
東京市教育時報	第七號	開發社
教育實驗界	第七卷第六七號	東京市教育會
婦女の友志美	第二號	育成會
山梨教育	第七十六號	成美社
上野教育會雜誌	第七十六號	山梨教育會
信濃教育會雜誌	第七十四號	上野教育會
愛知教育會雜誌	第七十四號	全會事務所
大分縣教育會雜誌	第六十八號	全會事務所
越佐教育會雜誌	第九十三號	全會事務所
九州教育雜誌	第九十九號	全會事務所
秋田縣教育會雜誌	第一百六十七號	全雜誌社
	第一百五號	秋田縣教育會